



9月9日は救急の日

救急車、本当に必要ですか？

救急車の不適正な利用が全国的に問題になっています。石狩市もその例外ではありません。救急車で運ばれた人のうち軽症だった人の割合を見ると、ここ5年間で平成19年が最も高くなっています。救急車の正しい利用について一度、一緒に考えてみましょう。

救

急車は、突然のけがや病気など、命にかかわる方を病院へ搬送する緊急自動車です。

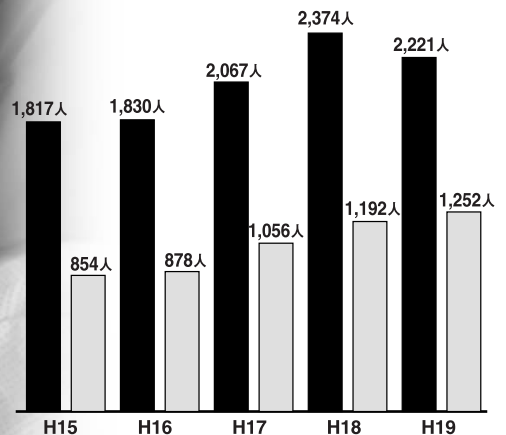
ところが石狩消防署でも近年、出動要請を受けて現場に駆けつけてみると「咳がつからい」、「指を切った」、「寂しいのでかかりつけの病院に連れて行ってほしい」、さらには筋肉痛や靴ずれなどの理由で救急車を呼ぶ人たちが目立つようになりました。

平成19年中に救急車が出動したのは2221件で、搬送人員は2069人にのぼります。これは、石狩市の人口のうち28人に1人が救急車を呼んだ計算になり、近隣の市町村に比べて非常に高い割合となっています。しかも、その日のうちに帰宅した「軽症者」は全体の約6割にも達していました。



病院が
分からない

こんな理由で
出動要請して
いませんか？



出動件数が増える石狩市。
28人に1人が
救急車を呼んでいます。

石狩消防署の救急車は現在4台。その内訳は同署に1台、親船・厚田・浜益各支署に1台ずつで、これで間に合わないときは当別町や札幌市などにも出動要請する。



救急業務は、限られた人員や救急車で提供しています。その費用は多額で、皆さんが納める税金で賄われていますが、すべては命を助けるためにあるものです。緊急性の低い出動は、そのまま救命率の低下につながります。今こそ、市民の皆さん一人一人の適正な利用が求められています。

夜間、休日で
診療時間外の
とき

通院・入院の
予定だった

優先的に
診てもらえる

救急車は
無料だから

死亡43人

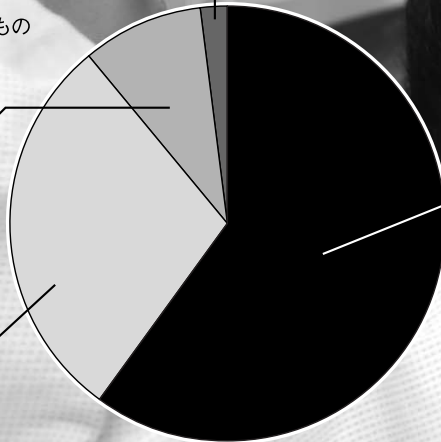
初診時に死亡を確認したもの

重症176人

3週間以上の入院を要する

中等症598人

入院を要するもので、重症にならない



軽症1,252人

入院を必要としない

軽症者の中には「どこの病院に行ってもいいのかわからない」「救急車は無料だから」「救急車で病院へ行けば優先的に診てもらえると思った」「通院・入院予定だった」など不適正な救急要請も見受けられた

救急搬送人員の約60%が軽症者でした。救急搬送人員平成19年中調べ